

授業科目 高次神経障害評価学

【担当教員名】 岩崎テル子・能登真一	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G I O】
認知や行為、言語といった脳の高次機能の障害である高次神経障害について、全容を把握するとともに種々の症状に対する理解を深め、各評価方法を学習し身につける。

- 【行動目標：S B O】
1. 高次神経機能の全体像とそれをひきおこす対象疾患について理解できる。
 2. 高次神経障害の評価で注意することを述べることができる。
 3. 個々の症状の臨床像を述べるができる。
 4. 個々の症状の定義を述べるができる。
 5. 症状にあった評価法を選択することができる。
 6. 様々な評価法を正しく実施することができる。
 7. 対象者の高次神経障害の全体像を把握し、評価計画を立てることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	高次神経機能とそれをひきおこす対象疾患	1	講義
2	高次神経機能評価の概要	1, 2	講義
3	左半球損傷例の高次神経障害の特徴	1, 3	講義
4	右半球損傷例の高次神経障害の特徴	1, 3	講義
5	失語とその評価	4, 5, 6	講義・演習、Quiz (1~4)
6	失行とその評価	4, 5, 6	講義・演習
7	その他の左半球症状 (Gerstmann症候群、構成障害など)	4, 5, 6	講義・演習
8	半側空間無視とその評価	4, 5, 6	講義・演習
9	その他の右半球症状 (病態失認、着衣障害など)	4, 5, 6	講義・演習、Quiz (5~8)
10	失認とその評価	4, 5, 6	講義・演習
11	記憶とその評価	4, 5, 6	講義・演習
12	注意とその評価	4, 5, 6	講義・演習
13	前頭葉症候群とその評価	4, 5, 6	講義・演習、Quiz (9~12)
14	全体像の把握と評価計画の立案	7	講義・演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	作業療法学全書第8巻 「高次神経障害」	日本作業療法士協会監修	協同医書出版社	1999年[改訂第2版]・2600円
参考書	神経心理学入門	山鳥 重	医学書院	1985年・6400円
	(臨床リハ別冊) 高次脳機能障害のリハビリテーション	江藤文夫・原寛美他編	医歯薬出版	1995年・4500円
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席・・・5%	
Quiz・・・30%	
期末試験・・・65%	